

2022年3月1日発売

## 入門書の決定版が新たな装いで復活

初版刊行から45年を経てなお、日本語で読める唯一のペルシア文学概説書が、新しく充実した文献案内とより網羅的な索引等を収録して復活！ 千年以上にわたる近世ペルシア語文学の流れを、ふんだんに詩作品の翻訳を交えながら、一般読者にも読みやすいよう平明かつ簡潔にまとめた1冊。イランの人々の精神文化の中心にある、フィルドゥスィー、オマル・ハイヤーム、サアディー、ルーミー、ハーフィズらの古典詩に、日本語で一度に触れられるのは本書以外にない。各時代の文学潮流を知るにとどまらず、イラン通史、特に文化史を理解する道しるべともなる。

イランの精髓は  
文学に学べ

# 増補新版 ペルシア文学芸思潮

四六判・上製・464頁・2800円＋税  
ISBN 978-4-904575-93-2 C0098

黒柳恒男

ペルシア文学芸思潮

増補新版

イランの精髓は  
文学に学べ。

千年以上にわたるペルシア文学史の発展を  
主要作品の翻訳を交えながら概観する。  
ペルシア文学研究入門の  
古典的名著かつ決定版が  
新たな補注や文献案内を付して復活！

### 黒柳恒男（クロヤナギツネオ）

1925-2014年。ペルシア文学者、ペルシア語学者。東京外国語大学名誉教授。1988年には日本で初めての本格的な『ペルシア語辞典』（大学書林）を編纂、執筆。著書に『ペルシアの詩人たち』（オリエント選書、東京新聞出版局、1980年）、『ペルシア語四週間』（大学書林、1982年）、『アラビア語・ペルシア語・ウルドゥー語対照文法』（同、2002年）など。翻訳に、フィルドゥスィー『王書—ペルシア英雄叙事詩』（平凡社東洋文庫、1969年）、カイ・カーウース、ニザーミー『ペルシア逸話集—カーブースの書／四つの講話』（同、1969年）、ニザーミー『七王妃物語』（同、1971年）、オマル・ハイヤーム『ルバーイヤート』（大学書林、1983年）、サアディー『薔薇園』（同、1985年）、『果樹園』（平凡社東洋文庫、2010年）、アッターール『鳥の言葉—ペルシア神秘主義比喻物語詩』（同、2012年）などがある。

黒柳恒男



東京外国語大学出版会

Tokyo University of Foreign Studies Press

発行：東京外国語大学出版会 TEL：042-330-5559  
URL：http://www.tufs.ac.jp/blog/tufspub/

\*ご注文・ご予約は、最寄りの書店、各ネット書店にてお申し込みください。全国の書店でお取り扱い可能です。